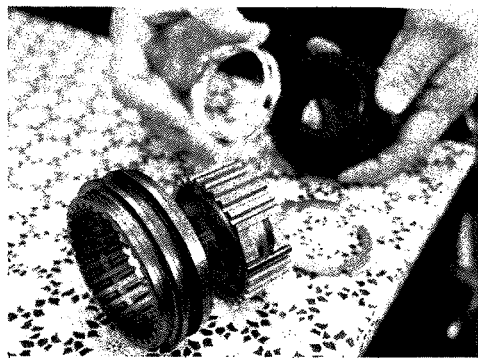


世界へ 地域発



自動車の変速機部品メーカーの協和合金(横浜市、高島真澄社長)の海外売上高比率は7割を超える。欧米に加え、車社会が進行する中国やインドネシアなどの新興国でも事業を拡大する。電気自動車(EV)市場への対応もにらみ蓄積した技術に磨きをかける。主力商品はギア切り替えに使う部品の「レバースィンクロナイザー」。てこ(レバー)の原理を応用し、軽

協和合金 自動車の変速機部品



ギアに無駄なく動力を伝える変速機部品(中央の薄い円弧形の部品がてこの役割を果たす)

協和合金 1947年創立。国内では日産自動車、海外ではホンダなど日系メーカーのほか、現地メーカーとも幅広く取引する。2017年3月期の連結売上高は約130億円。従業員は162人。

る海外自動車メーカーでも取引を拡大した。度重なる苦境の時代もあった。国内ではMT車からAT車への転換に加え、バブル崩壊で消費が低迷。1997年のアジア通貨危機が追い打ちをかけ、売上高

「日本で細々と続けるか、に車社会が到来、稼ぎ頭に海外で勝負するか」。当時成長した。英仏政府が40年までにディーゼル車やガソリン車の販売を禁じる表明をしたことを受け、欧州自動車メーカーのEVシフトが加速し

取引先を獲得。05年には仏ルノー向けの販売 ただモーターの回転数を調節するような機能などをこれまで培ってきた動力を無駄なく伝える技術を提案できるのではとみる。自動車メーカーが試作品を作った時、「これなら採用してよかった」と高島社長。95もよいと思わせる部品を提案していき「と力を込めて語る。

EVシフトに備え怠らず

い力で動力を無駄なくギアに伝えられる技術は日本や中国や欧州で特許を取得した。国内では9割以上の乗用車がAT(自動変速機)車

で、MT(手動変速機)車は60億円から50億円、40億はごく僅かだが、海外では円と急減した。過剰になっ欧州を中心にMT車の割合が生産能力を絞り、最大290人だった社員を減らすなどコストを削減したが、

高の6割以上 直近で売上 無駄なく伝える技術を提案できるのではとみる。自動車メーカーが試作品を作った時、「これなら採用してよかった」と高島社長。95もよいと思わせる部品を提案していき「と力を込めて語る。

(横浜支局 松川文平)